

豊明市行政評価制度 「事務事業」評価票

1 事務事業の概要

1-1 事務事業の名称	ため池親水護岸整備事業(主要事業)								
1-2 担当	部	経済建設部	課 又は施設	土木課	係	土木係	評価票作成者	課長補佐兼治水担当係長 市川 一成	
1-3 総合計画における施策の体系	節	生活環境 「安全・安心で、うるおいのあるまちづくり」			基本施策	水辺空間の保全と再生		コード	1 2 1
	項	水と緑の環境づくり			単位施策(中)	河川及びため池の再整備		コード	1 2 1 1
					単位施策(小)	ため池の整備		コード	1 2 1 1 2
1-4 事務事業の目的の精査	対象と対象の数	ため池の治水対策工事と合せて整備を行う池。		意図(対象を事務事業によってどのような状態にするのか)		ため池の護岸をコンクリート製品で被覆する部分を少なくし、土などで覆い草木の植栽を行って緑豊かな水辺にする。			
1-5 事務事業の内容	洪水調節のための改修工事と合せて、護岸の整備を行い草木の再生を進めるための設計・施工等を行う。								

2 事務事業実施の状況

2-1 事務事業の実施における基本認識	事務事業実施にあたって心がけた改善の取組み		社会状況等の事務事業がおかれる環境把握		市民ニーズの認識	
	平成18年度	草木の生える面積を多く確保する。	水鳥が生息できる環境が望まれている。		緑の部分が多いほど親しみを感じる。	
	平成19年度	自然に優しい材料を使う。	水質の良い環境が望まれている。		水質の良いほど親しみを感じる。	
	平成20年度					
	平成21年度					
	平成22年度	地域住民の意見を取り入れ、整備を行った。				
	平成23年度	地域住民の意見を取り入れ、整備を行った。				
	平成24年度	地域住民の意見を取り入れ、整備を行った。				
	平成25年度					
	平成26年度					
平成27年度						

2-2 総合計画における単位施策成果指標	事務事業成果指標名		前期目標値(単位)	後期目標値(単位)	指標の説明
	ため池の整備箇所数(箇所)		2(箇所)	3(箇所)	治水対策として改修計画されているため池の内、規模の小さな池とする。 (鶴根北池・住吉池・大原南池) 大原南池を実施。

2-3 成果指標に係る活動実績とコストの推移(アウトプット分析)	活動実績 a(箇所)	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
	直接事業費 b(千円)	鶴根北池 1	住吉池 1			大狭間上池 1	大狭間上池 1	大原南池 1			
	人件費 c(千円)	2,010	1,840			1,000	1,983	13,640			
	合計コスト d(b+c)(千円)	134	133			627	614	1,793			
	単位コスト d/a(千円)	2,144	1,973			1,627	2,657	15,433			
		1箇所当たり 2,144	1箇所当たり 1,973	当たり	当たり	1箇所当たり 1,627	1箇所当たり 2,657	1箇所当たり 15,433	当たり	当たり	当たり

アウトプット実績(活動数値)の補足説明 → 洪水調節池改修工事費の45,465,000円のうち30%を事業費とする。平均人件費5,978千円×0.3人

2 - 4 成果指標に対応する実績と達成度の推移		平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
指標対応実績(単位)		鶴根北池 1(箇所)	鶴根北池・住吉池 2(箇所)			大狭間上池 3(箇所)	大狭間上池 3(箇所)	大原南池 4(箇所)			
後期目標値に対する達成度(%)		33.3(%)	66.6(%)			100(%)	100(%)	133(%)			

3 事務事業の自己評価結果

3 - 1 評価結果(アウトカム自己分析)	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
単年度担当課評価	B	B			A	A	A			

- 4段階評価結果
- A : 上位目的である施策に貢献しているので継続する
 B : 事務事業の実施手法や環境(予算的・人的)に改善が必要
 C : 縮小等、事務事業としての見直しが必要
 D : 事務事業の廃止が相当
- 判断の基準
- 必要性(必要な事務事業であるか)
 公共性(公が実施する意味があるか)
 妥当性(ニーズに対して投入が適正か)
 効率性(結果に至る活動に無駄はないか)
 有効性(活動の結果が上位の目的に貢献しているか)
 市民満足度(事務事業が対象にしている市民を満足させているか)

3 - 2 評価の内容	今後の環境変化を踏まえた課題認識	次年度に向けて改善する取組み	事務事業の担当課としての単年度の取り組みの自己評価
平成18年度	費用面から十分な整備が出来なかった。	治水対策とは別に予算を確保する。	治水事業の中で行っているので十分整備が出来なかった。
平成19年度	治水事業の中で、整備をするには限界があるので、別事業を考える。	整備対象となる他の補助事業がないか調べる。	予算の範囲内において、良好な整備ができた。
平成20年度			
平成21年度			
平成22年度	洪水調節池整備工事と合わせて行うことで護岸の整備も進むが、十分な環境改善を行うにはまだ多くの費用が必要となる。		
平成23年度	洪水調節池整備工事と合わせて行うことで護岸の整備も進むが、十分な環境改善を行うにはまだ多くの費用が必要となる。		
平成24年度	洪水調節池整備工事と合わせて行うことで護岸の整備を進めてきて、目標値に達したことから今後は洪水調節池改修工事の有無によるところとなる。		
平成25年度			
平成26年度			
平成27年度			

4 事務事業の総合評価結果

4 - 1 総合評価の結果	結果	審査会による改善方向の指示
平成18年度	A	効率性の高い工事に取り組み、周囲の環境保全に結びつく事業であるので、継続して事業を進めること。
平成19年度	A	ため池の整備事業は、周囲の環境に貢献しており、継続して事業を進めること。
平成20年度		
平成21年度		
平成22年度	A	継続して事業を実施すること。
平成23年度	A	継続して事業を実施すること。
平成24年度	A	洪水調節池改修工事に合わせ整備を進めること。
平成25年度		
平成26年度		
平成27年度		